

さとうきび新品種“Nil”の生育相について

吉 田 典 夫

(鹿児島県農業試験場)

YOSHIDA, N.

Study on the Growing Process of a New Cultivar of Sugarcane “Nil”

1. はじめに

さとうきび新品種「Nil」は、1965年琉球農業試験場で F146 を母本として多父交配され、1966年九州農業試験場温暖地作物研究室に導入され育成された品種で1973年鹿児島県全域を対象に奨励品種に採用された。

ここではその栽培方法の資料を得るため春植・株出の二栽培型で生育相解析を試み、若干の知見を得たので報告する。

2. 試験方法の概要

Nil・NCo310 の両品種を用い春植・株出の二栽培型で試験を実施した。栽植様式は畦間110cm 株間30cm 1芽苗で栽培管理は基準によったが、株出では両品種にかん水区を設定し、10日間隔30ミリかん水を基準と定め期間中5回のかん水を行った。

3. 試験結果および考察

(1) 茎数

春植の全体的分けつ様相は、NCo310 とほぼ同じ傾向であるが有効茎率が NCo310 57.2% に比較すると Nil 51.1% でやや低い。収かく茎での茎の構成割合を図1で見ると NCo310 が母茎22.0% 早期発生茎（6月茎・7月茎）78.0% に対し Nil は母茎33.7% と早期発生茎（6月茎・7月茎）63.0% で NCo310 と比較すると母茎の占める割合が高く、母茎中心型の分けつを示している。

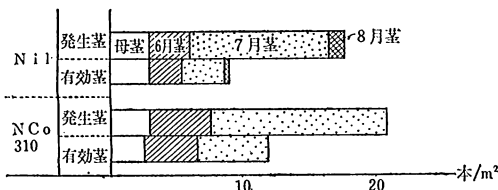


図1 発生茎と有効茎(春植)

株出では Nil は発生茎は多いが有効茎率が低い傾向を示している。またかん水することによって両品種とも発生茎および有効茎の若干の増がみられる。

(2) 茎長

春植では Nil は生育初期の伸びがよく、生育中後期の伸びがややにぶい傾向を示しており、梅雨明け後の夏間に両品種の逆転がみられる。

株出では Nil は NCo310 に比較してかん水効果が顕著である。これらのことを合わせて考えると Nil の干ばつ抵抗性にやや問題があることが指摘される。

(3) 茎重

春植では茎数と同じ傾向で NCo310 と比較すると母茎の占める割合が高く、母茎中心型の傾向を示している。株出ではかん水することにより NCo310 で43.0%、Nil で51.0%の増収がみられ、Nil のかん水効果がやや高いことを示している(図2)。このことは茎の伸びによる1茎重の増加が大きく影響したものである。

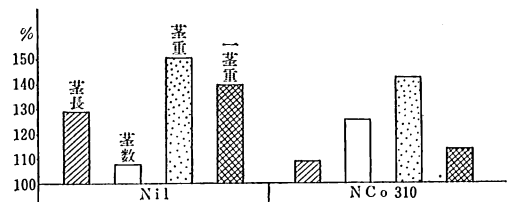


図2 収量構成要素の対無かん水比(かん水効果) (株出)

(4) 蔗汁質

両栽培型とも Nil が NCo310 に比較して登熟が早く、蔗汁質も良好な点が認められる。

株出においてはかん水の影響が11月の早期の時点ではみられ、ややBXの低下がみられるが、後期(1月)になるとその影響はほとんど認められない。